

令和5年度 【養父市】 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：2名
- 2 認知症地域支援推進員の役割

地域における医療及び介護の連携強化並びに認知症の人及びその家族に対する支援体制の強化を図る

- (1)認知症の人等に対する適切な支援の検討及び関係機関の連携、調整等
- (2)認知症の人等を支援する社会資源の情報収集及び提供
- (3)認知症の人等への支援を行う関係者に対する研修会、交流会等の実施
- (4)市民等に対する認知症に関する正しい理解の普及啓発
- (5)認知症支援ネットワーク会議の運営
- (6)地域ケア推進会議への提言

報告者氏名： 養父市地域包括支援センター
保健師（認知症地域支援推進員） 森 知美

【養父市】認知症施策全体図

2. あんしん福祉の推進

基本目標2
あんしん福祉の推進

施策の方向	具体的施策
(1) 介護保険サービスの円滑な提供	①介護保険サービスの質の向上
	②人材の確保
	③介護保険制度、介護保険サービス等の普及啓発
	④介護保険サービスの整備
	⑤サービス提供体制の整備に関する考え方
	⑥介護保険サービスの適正かつ円滑な運営
(2) 介護予防・生活支援サービスの充実	①総合事業による日常生活支援の推進
	②多様なサービスの充実
	③生活機能向上サービスの充実
	④地域リハビリテーション活動支援事業
	⑤高齢者福祉サービスの充実
(3) 認知症施策の推進	①認知症予防・早期発見の推進
	②認知症医療体制の充実
	③認知症地域連携体制の強化
	④認知症ケア人材の充実
(4) 安心・安全なまちづくり	①生活安全施策・事業の推進
	②福祉環境施策・事業の推進

認知症の人の力の発信と共生社会の推進

- 令和4年度より認知症地域支援推進員として活動する中、以前の認知症支援から大きく変わり、認知症の人が生き生きと暮らし活動していることを発信することの支援や社会参加を支援することが重要であると感じた。
- 令和5年6月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が成立し、認知症があっても一人ひとりが尊重され、希望や生きがいを持って暮らせる共生社会を実現するために、認知症の人の活動を発信する「認知症共生社会推進フェスタ～認知症とともに希望を持って暮らせるまちづくり～」を企画する。
- 内容
 - ①認知症当事者の講演（1時間程度）
講師：一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ代表理事 藤田和子さん
鳥取市中央包括支援センター 認知症地域支援推進員 金谷佳寿子さん
 - ②本人ミーティング（1時間程度）
藤田さん、神戸市の当事者の方を囲んで養父市内の当事者の方同士で情報交換
 - ③展示・啓発コーナー
認知症当事者の方の力が発揮できる社会参加の場や認知症支援・相談の場の紹介
など

【講演会の様子】



【本人ミーティングの様子】



【各コーナー】



・アンケートより

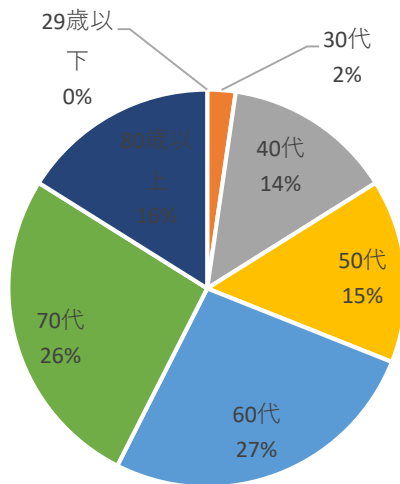
参加者の4分3が女性であり、女性の方が関心が高いことが伺える。年代では60代以上で全体の3分の2を占めている。看護学校等に周知したが、20代以下の参加者はなかった。

民生委員、ケアマネ、介護福祉関係者の参加は併せて10%以下で、福祉系の参加が医療系よりも少なかった。

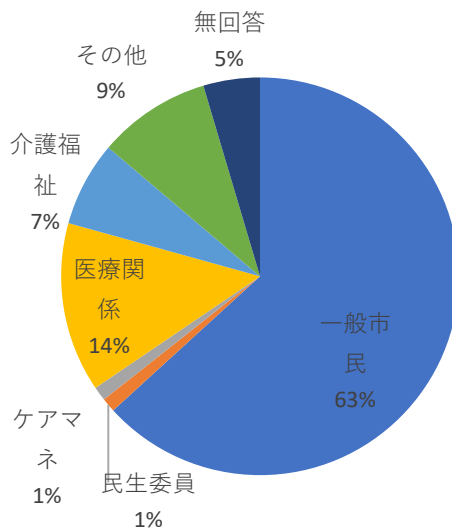
養父市在住の参加者は全体の4分の3であった。但馬内の地域包括支援センターや認知症カフェを通じて広くイベントの周知を行い、参加者の4分の1が市外在住の方であった。

講演の評価は、「大変よかった・よかった」が9割であった。

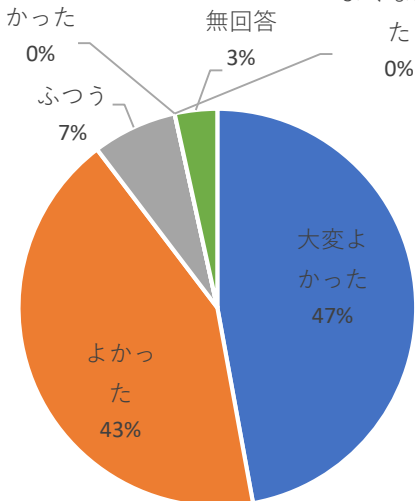
参加者の年代



参加者の所属



講演評価



【参加者の感想】

- ・つながりが大切・認知症についての知識・できないという偏見をなくしていきたい・みんなで助けあえる。自分がなった時に迷惑をかけると思ってしまう。そう思わなくてもいいようにまわりも自分も意識をかえていきたい。
- ・認知症の人の参加する場をもっと多くして一般の人達と交流できる場を作っていくようになったらいいと思う。
- ・認知症の方、本人さんの意見をしっかり聞いてあげる事が大切だと感じた。初期診断が大切。隠さないことも大切だと感じた。
- ・決して他人事ではなく自分や家族に起こりうることである。今後の生活の中でしっかり考えていきたいと感じた。
- ・いかに人とのかかわりが大事であるかを実感しました。年を重ねるとどうしても外に出る機会が少なくなりますが認知症でなくてもどんな人でも一人では生きて行けないと感じています。人事ではなく自分事としていこうと思っています。

【実施しての感想】

テーマは、市民の関心が高い「認知症」であったが、今までにない当事者の視点でイベントを計画できた。認知症当事者による講演では、認知症を我が事として捉えていただくきっかけとなったように感じる。初めて行った本人ミーティングでは、当事者の藤田さんにファシリテーターとなっていただき進めていただいた。参加者は3名と少なかったが、「次に認知症になる人のために、自分たちが活動しながら偏見をもった人たちに地道に伝えていこう。」と藤田さんより伝えていただいた。展示・啓発コーナーでは、但馬内の各認知症カフェが展示を行い、出会いカフェが当日カフェを開催した。60名ほどの利用があった。他に、認知症デイや小多機、精神科病院等が利用の様子や診断の流れ等を展示した。福祉介護関係の方々の参加がもっとあればよかったと感じる。